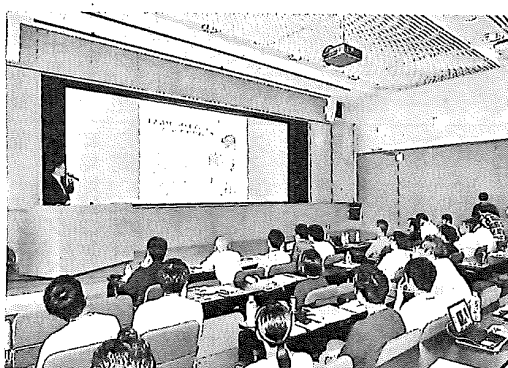


「景観の破壊と創造」 風景デザインワークショップ



風景デザイン研究会は18日、19日の2日間にわたり、福岡市早良区の九州大学西新プラザで「第13回風景デザインワークショップ」を開催した。

写真Ⅱ。（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部が共催した。今年度のテーマは「風景・風景観の破壊と創造」。ワークショップ初

日には、このテーマを基にシンポジウムが開かれ、研究会の会員とともに、建築設計や都市計画等の専門家らより、それぞれの風景づくり等に関する取り組みが紹介され、参加者ら全員で『本当にいい風景とは何か』を考える機会とした。

研究会の会長を務める九州大学の島谷幸宏教授が、ワークショップの開催にあたり挨拶、今年度のテーマを掲げるに至った経緯を紹介するとともに、大規模災害等により破壊されてしまう風景に関して、今回のワークショップを通じ、参加者らとともに破壊後の創造

に対する風景観などについて考えていきたい」とした。

第13回目となる風景デザインワークショップは、第1部のシンポジウム「風景・風景観の破壊と創造」、第2部の風景デザインアワード、第3部の座談会「今問われる復興と風景」の3部構成で開催。

第1部のシンポジウムでは、建設コンサルタンツやメーカー、国交省や自治体の関係者、学生など約200人が会場を訪れ、発表者によるさまざまな風景づくりに関するスピーチに、熱心に耳を傾けていた。